遊道 Grow Path Activity

遊道通信

株式会社遊道

発行日 2023年7月

様々な年齢が出会える異年齢保育

異年齢保育の大切さが見直されております。一昔の保育では、学年別（年齢別）の保育が通常でした。異年齢はイベント的（定期的）に実施されていましたが、現代では「異年齢で生活を共にする」ことの大切さが言われております。詳しく解説していきましょう。

子ども同士で文化を伝える

異年齢の関りを通して、生活や遊びの文化を子ども同士で伝えることができます。その手法は様々で、見て覚え、教えてもらって覚え、聞いて試し、憧れから関わるなど、多岐にわたります。

異年齢はお互いの育ちあい

○憧れ・羨望・目標
○模倣（真似っこ）
○聞き入れる
○興味・関心
○見る
○教わる
○安心感
など

⇦ ⇨

○自尊心
○豊富な言葉
○豊富な表現力
○相手が理解しているか
○力加減（相手によって変化）
○伝える力
○状況把握・相手を認める
など

異年齢の関りは大人では教えられない

異年齢での育ちあいは大人が教えるまたは指導することができません。実際に関わって、実体験の中から生まれる感情や情動となります。日々の生活を共にする仲間だからこそ、必要性を感じ、どのようにしたら相手が分かるか、何を言いたいのかを察するなどを自然と覚えていきます。

保育施設では、兄弟姉妹以外の異年齢と関わる機会が多いため、多くの人と接することができます。保育施設の特色である、集団の力を活用しながら子ども達を成長を引き出しましょう！

QRコードからLine@にお友達登録をいただくと、
毎週、子育て情報をお届けします！